

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			簡易点検
事務事業名	キャップハンディ指導者養成派遣事業			シート番号	A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉	局	障害福祉	部	障害施策推進 課 評価責任者(課長名)
					11-125
					長尾

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	4	人権を尊重するまちづくりの推進	無
	2	事業開始年度	平成 9 年度		終了(予定)年度	年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(略称・障害者総合支援法)			
	4	関連計画	第4次障害者長期計画			
5	事業実施の経緯	障害や障害者に対する市民の理解や関心を深め、障害者への配慮等を推進するために事業を実施している。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体		
			<input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他( )		
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	堺市内在住、在学または在勤で小学3年生以上		
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	障害のない方が視覚・聴覚・上肢・下肢それぞれに「障害のある状態」を疑似体験し、障害を持つ方の身体状況や気持ちの一端を理解する「気づき」を促す。		
9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	市内の小中学校やグループ、市内で開催されるイベント等において、視覚障害・下肢障害・上肢障害・聴覚障害の疑似体験を実施する指導者ボランティアを育成し、派遣する。 1. 指導者ボランティアの派遣 1回10人、年間30回以上派遣する。 2. 指導者ボランティアの研修・育成 指導者ボランティアの指導技術の維持向上を目的とした研修会を年間7時間程度開催する。 3. 体験用備品の貸出 市内の小中学校、自治会や企業向けに、福祉学習や研修支援のため、体験備品(車いす、白杖等)の貸出を行う。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他( )			
		社会福祉法人 堺市社会福祉協議会			

Ⅲ. 投入量

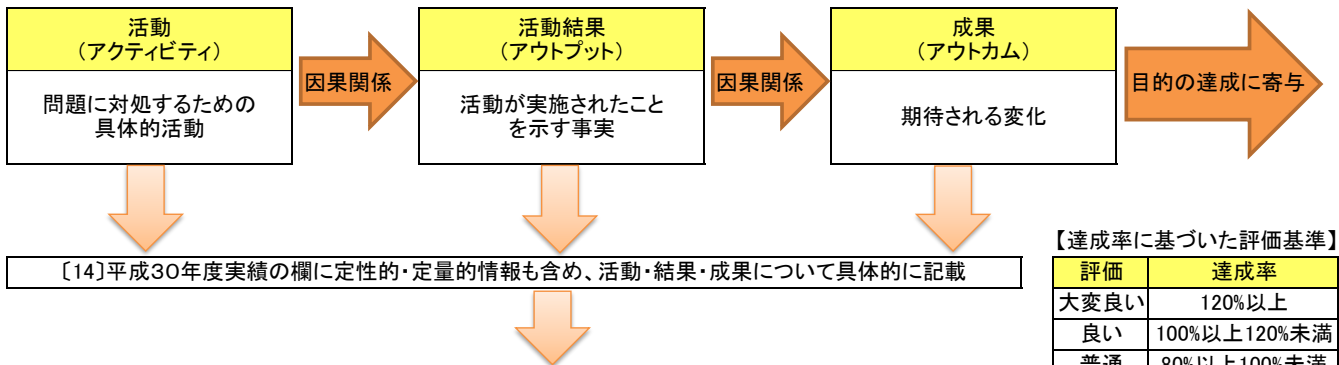
項目		単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	4,777	4,688	4,689	4,465	
	主な事業費内訳	委託料	千円	4,777	4,688	4,689	4,465
			千円				
			千円				
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円	3,582	0	0	0
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
市債		千円					
	その他( )	千円					
	一般財源	千円	1,195	4,688	4,689	4,465	
12	人件費 (b)	千円	820	820	820	810	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	5,597	5,508	5,509	5,275	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	キャップハンディ指導者養成派遣事業	シート番号	11-125
-------	-------------------	-------	--------

### ≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

#### ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

#### 事業の活動内容や成果

平成30年度実績							
活動実績と成果	14	<p>平成30年度は指導者ボランティアの派遣を年間48回派遣し、市内の小中学校やグループ、市内で開催されるイベント等において、延べ2,736人が視覚障害・下肢障害・上肢障害・聴覚障害の疑似体験を行った。 また、指導者ボランティア育成研修を年間3回行い、延べ60名の参加があった。</p> <p>小中学校からの派遣依頼が大半を占めており、自治会をはじめ、地域のグループ、企業等への周知を強化していく必要がある。 (社福)堺市社会福祉協議会とより緊密に連携しながら、事業コストの縮減に努めるとともに、本事業を通じた障害者理解の普及啓発に引き続き取り組んでいく。</p>					
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	派遣回数	目標値	回	60	60	60	60
		実績値		56	53	48	
		達成率		93%	88%	80%	
		評価		普通	普通	普通	
	算出方法・設定根拠など		月5回×12か月				
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	体験者数	目標値	人	6,000	6,000	4,500	4,500
		実績値		4,267	3,334	2,736	
達成率			71%	56%	61%		
評価			少し悪い	悪い	少し悪い		
算出方法・設定根拠など		派遣回数60回×参加人数75名					

#### 業績の分析

17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
例年派遣実績がある学校等からの依頼があったが、新規の依頼が少なかったことから派遣回数及び体験者数の目標を達することができなかった。	

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。